

## 2月16日のウクライナ情報

安齋育郎

### ①プーチン大統領がタッカー・カールソン氏に感謝、同時に逮捕に対する懸念を表明 (Sputnik, 2024年2月15日)

ロシアのプーチン氏(現大統領、大統領候補)はモスクワを訪問し、取材を行ったタッカー・カールソン氏に感謝を表明した。それと同時に、#アサンジ氏と同じ運命を辿る可能性を懸念し、無事を願った。

国営メディア「ロシア 1」の取材に応じた中でプーチン大統領は西側でこのインタビューが否定的に評価されている点について触れた中で、そもそも西側がロシア側の発言に「注目し、耳を傾けている」ことそのものは肯定的に評価した。

「何らかの理由で、彼ら(西側)に関係した理由で直接対話を行うことができない以上、#カールソン氏を仲介者として対話ができることに感謝すべきだ」

また、インタビュー後に米国でカールソン氏が逮捕される可能性があることについて、「それは悲しいことだ」と指摘しつつ、カールソン氏はリスクを承知の上だったとも分析した。

ただし、ウィキリークス創設者、ジュリアン・アサンジ氏(投獄中)は国家機密のリークに関与したことが理由とされているのに対し、カールソン氏を裁く理由は見当たらないとした。そのうえで、仮に当局が逮捕に踏み切れば、民主主義と自由主義を装った米国の本性が露わになると警告した。



[https://twitter.com/sputnik\\_jp/status/1757961248761913530?s=09](https://twitter.com/sputnik_jp/status/1757961248761913530?s=09)

### ②ウクライナ東部の要衝「ロシアの支配下に置かれる」 戦況悪化に米政府高官が危機感(TBS NEWS DIG, 2024年2月16日)

ロシアの軍事進攻を受けるウクライナの戦況悪化が伝えられるなか、アメリカ政府高官は東部・ドネツク州の要衝、アウディーイウカが「ロシアの支配下に置かれるおそれがある」と強い危機感を示しました。

NSC カービー戦略広報調整官

「残念ながら、ウクライナ側からの報告によると、状況は危機的で、ロシアが連日、ウクライナの陣地を圧迫し続けています。アウディーイウカはロシアの支配下に置かれるおそれがあります」

アメリカの NSC = 国家安全保障会議のカービー戦略広報調整官は 15 日、ウクライナ東部・ドネツ

ク州の要衝、アウディーイウカがロシアに制圧されるおそれが高まっているとの認識を示しました。

「このような事態になっているのはウクライナが大砲の弾薬を使い果たしているからだ」と指摘したうえで、追加の支援を実施するために必要なウクライナ支援予算を早期に承認するよう、改めて議会に求めました。

一方、カービー氏はロシアのプーチン大統領が次のアメリカ大統領について「バイデン大統領の方がトランプ前大統領よりも望ましい」と述べたことをめぐり、「プーチン氏は我々の政権がロシアの悪意ある影響力に対抗するため何をしてきたかよく知っていると思う」と話したうえで、「プーチン氏は我々の選挙に口を出すべきではない」と強調しました。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/110729c87031e06b8ebadb9de9cfacc929a461b9>

### ③NATO とウクライナによる共同訓練センター設立へ(TBS NEWS DIG, 2024年2月16日)

ロシアによるウクライナへの侵攻開始からまもなく 2 年となるなか、NATO＝北大西洋条約機構は国防相会議を開き、ウクライナと NATO による共同訓練センターを新設することで合意しました。

NATO ストルテンベルグ事務総長

「ウクライナがロシアとの戦争で得た教訓を共有できるようになり、ウクライナ軍が同盟国とともに学び、訓練する体制が整うことになる」

NATO は 15 日、ベルギーのブリュッセルにある本部で国防相会議を開き、ロシアによる侵攻が続くウクライナと NATO による「共同分析・訓練・教育センター」を新たに設立することで合意しました。センターはポーランドに設置されるということで、ウクライナと NATO の連携強化が期待されます。

また、国防相会合では、ウクライナ支援を続けるため武器や弾薬の生産体制の強化についても話し合ったということです。

ストルテンベルグ事務総長は、今年、加盟 31 か国のうち 18 か国が国防費を GDP＝国内総生産比で 2%以上に増やす目標を達成する見通しだとしています。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/f9d35b2bca77904be51174b366831736bfa6b5d>

### ④ロシアが遂に使った(らしい)マッハ 9 の迎撃不能ミサイル「ツィルコン」の脅威(NEWSWEEK, 2024年2月15日)

<ウクライナの首都キーウへのミサイル攻撃に使われた可能性がある最新鋭兵器は本当に「迎撃不能」なのか。それとも「キンジャール」の二の舞か>

ロシアが 2 月 7 日に行ったウクライナの首都キーウに対するミサイル攻撃では、実戦で初めて極超音速ミサイル「ツイルコン」が使用された模様だと、ウクライナ側が発表した。事実であれば、もうじき 3 年目に突入するウクライナ戦争で初めて、さらには実戦でも初めての使用となる。ただし、ロシアの誇る最新鋭兵器はこれまで必ずしも謳い文句どおりのものではなかったため、ツイルコンの登場が一進一退の戦況にどう影響するかは不透明だ。【エリー・クック】

ロシアが 7 日に行ったミサイル攻撃ではツイルコンが使用された可能性が高い——ウクライナ政府の支援を受けたキーウ犯罪科学研究所のオレクサンドル・ルビン所長は 2 月 12 日、暫定的な分析結果をそう発表した。

同研究所はミサイルの破片と部品を分析したが、内蔵されていた超小型電子機器は「原型をとどめていない状態」だったとルビンは述べている。

### ■「技術的にはまだ未熟」

「ミサイルはかなり細かく破碎されており、同定は困難だったが、それでもこの兵器が、敵の主張するような戦術的・技術的性能に達していないことは明らかだ」と、ルビンは説明した。

ウクライナ空軍のユーリ・イナト報道官は 2 月 14 日、本誌に対しツイルコンの使用が確認されたと述べ、ウクライナ軍がロシアの極超音速ミサイルの迎撃に使用し、その威力が実証されている対空防衛システム「パトリオット」を追加供与してほしいと、米政府に訴えた。ただ、ロシアがツイルコンを引き続き使用するかどうかは現段階では予想できないと、イナトは付け加えた。

ウクライナ空軍は 7 日にロシア軍が前夜から未明にかけて数種のミサイルと攻撃用ドローン(無人機)で攻撃を行ったと発表していた。

それによれば、ロシア軍は数機の TU95 戦略爆撃機から KH101、KH555、KH55 巡航ミサイルを計 29 発発射。黒海に停泊する艦船から巡航ミサイル「カリブル」を 3 発撃ち、加えて弾道ミサイル「イスカンデル M」を 3 発、対空誘導ミサイル S300 を 5 発、KH22 巡航ミサイルを 4 発発射したという。

ウクライナ軍は、KH101、KH555、KH55 計 26 発、さらに 3 発のカリブル全ての迎撃に成功したと発表したが、その時点ではツイルコンなどの極超音速ミサイルが使用された可能性については言及していなかった。

### ■キンジャールと同じく評判倒れ？

ロシアは開発を始めたときから一貫してツイルコンの威力を喧伝してきた。それによれば、最高速度はマッハ 9。マッハ 1 は時速約 1225 キロだから、その 9 倍の時速 1 万 1000 キロを超えるスピードで飛べることになり、迎撃は不可能だという。

ツイルコンは元々、極超音速の対艦ミサイルとして開発され、ロシアは 2020 年からフリゲート艦や潜水艦からの発射実験を行っていたと、米シンクタンク・ランド研究所の欧州支部の防衛安全保障アナリスト、マティアス・エケンは本誌に語った。

「ロシアはこのミサイルの運用を急いでいたので、早くも実戦配備し、使用した可能性があるとも聞いて、それほど驚かない」

しかしウクライナで初使用された可能性を過大評価すべきではないと、エケンは釘を刺す。「ロシアが国産の兵器システムを誇大宣伝するのは毎度のことだからだ」

ウクライナ側の発表によれば、ロシアが「無敵」と呼ぶもう 1 つの極超音速ミサイル「キンジャール」



は、これまで何度もウクライナ軍に撃ち落とされた。

### ■ウクライナの防空網は持つか

「ツィルコンが配備されれば、われわれは敵のあらゆる防衛システムを突破できると胸を張って言える」と、このミサイルを製造する戦術ミサイル公社の総帥であるボリス・オブノソフは今年 1 月ロシアの国営メディアに語った。だが西側の専門家はこの手の主張には懐疑的だ。

とはいえ、ウクライナ側が言うように、キンジャールはパトリオットで迎撃できたとしても、ツィルコンが実戦配備されれば、ウクライナの防空網を揺さぶる深刻な脅威になり得ると、英政府が 14 日に警告を発した。

今回ツィルコンが使用された可能性については、いくつか不明な点がある。黒海艦隊には今のところこのミサイルを搭載した船はほとんどないとみられているため、ロシア軍の支配地域の沿岸部から地上発射された可能性が高いと、英国防省はみている。地上発射型も開発されている模様だと、エケンも述べていた。

ロシアのアドミラル・ゴルシコフ級フリゲート艦の 1 号艦は既にツィルコンを搭載している。ロシアはこの艦を「大西洋、インド洋、さらには地中海を横断する長距離航海」に派遣したと、ロシアのセルゲイ・ショイグ国防相は 1 月初め国営メディアに述べた。

### ■増産は困難

「ツィルコンは開発から試験、運用へとあまりに急ピッチで進んでいるため、開発段階で出てくる諸々の問題をこれほど短期間で全てクリアできたのか疑問が生じる」と、エケンは指摘する。

今回の使用は実戦でのテストではないかと、専門家はみている。ロシアはウクライナ攻撃に最も有効な各種ミサイルの構成を探ろうとしていて、ウクライナの防空網が極超音速ミサイルに対応できるかどうかを試したかったのではないかと、エケンは言う。

英国防省も 14 日に同様の見解を発表した。「ロシアは実際に戦闘が行われている環境で、新たに運用する兵器システムを試し、その能力を確認・実証したかったのではないかと」

とはいえロシアが実戦での使用に向けてツィルコンを増産しようとするれば、地上部隊の立て直しなど差し迫った兵備拡充に投入するべき資源がそちらに取られることになると、エケンは指摘する。「そのため、ツィルコン配備でウクライナ戦争におけるロシア軍の命運がすぐにも変わるようなことはまずあり得ない」

<https://news.yahoo.co.jp/articles/ec3789dd624f036fc4e17c310a161dae1c12ad43>

## ⑤ ドイツで極右政党「AfD」に対し…5 週連続抗議デモ EU 離脱＝“デグジット”党首が主張(テレ朝 news, 2024年2月15日)

ドイツでは経済や移民の問題をはらみ、ドイツの EU 離脱・デグジットが取りざたされている。その離脱を主張している極右政党に対して抗議する激しいデモが 5 週連続で起こっている。

### ■支持拡大する極右政党「AfD」

11 日、ドイツのミュンヘンで 10 万人の市民が参加するデモがあった。その怒りの矛先は？  
デモに参加した人

「民主主義を捨ててはいけません。『AfD』は民主的ではない」

このデモは、ドイツの極右政党「AfD」に抗議するものだ。デモはドイツ各地で行われ、これで 5 週間連続となっている。

極右政党「AfD」への抗議デモに参加した人

「AfD は私たちを不安に陥らせています。民主主義の中で右翼主義は認められない。私たちは、二度と過ちが起こらないように、戦わなければいけないんです」

「AfD」は 2013 年、ギリシャ経済危機のなかでドイツが多額の支援をすることに反発し、「反 EU」を掲げて設立された。

2017 年に、ドイツ連邦議会選挙で初めて議席を獲得し、国政に進出した。

その後、コロナ禍を経て、物価高や難民の急増で、2023 年に支持率を大きく伸ばした。

### ■AfD の共同党首 ドイツの脱 EU を主張

こうしたなか、「AfD」のメンバーが右翼活動家らと秘密の会合を行い、移民・難民の追放計画を議論していたことが報道により明らかになった。

これを受け、ドイツでは AfD に対しての大規模デモが起きているのだ。

さらに、AfD の共同代表を務めるアリス・ワイデル氏の発言も、今、物議を醸している。

ワイデル氏

「もし EU の改革が不可能であれば、イギリスがしたように、国民に決断を委ねるべき。ドイツが『デグジット』、EU から出ていくことを…」

イギリスの EU 離脱、「ブレグジット」に掛けて「デグジット」と呼ばれる、ドイツの EU 離脱の必要性を主張したのだ。今、ドイツで何が起きているのか…。

(「大下容子ワイド！スクランブル」2024 年 2 月 14 日放送分より)



<https://news.yahoo.co.jp/articles/55a8626100ecbcdadbaafa2231c500c9fdc b3f74>

### ⑥“言い間違い”連発の「バイデン米大統領」に再燃する「高齢不安」 専門家が指摘する「軽視できない症状」とは(デイリー新潮、2024年2月15日)

今年 11 月に行われるアメリカ大統領選で、民主党候補指名が確実視されているバイデン大統領 (81)への「不安」の声が高まっている。2 月に入って以降、公の場での“失言”が相次ぎ、民主党内からも「大統領を務めるには高齢過ぎるのでは」との声が上がり始めているという。果たして、専門家の目にバイデン氏はどう映っているのか。

すでに史上最高齢の米大統領であるバイデン氏が、仮に再選して 2 期目を務めた場合、任期満了時には 86 歳になる。米 ABC テレビの最新の世論調査では「高齢過ぎてバイデン氏は 2 期目を務められない」との回答が 86%に達し、米国内に動揺が広がっているという。

「共和党の指名候補争いで独走するトランプ前大統領も 77 歳と高齢のため、本選で両者の一騎打ちとなる“老人対決”の事態を避け、世代交代を求める声はいまも根強い。なかでも最近、バイデン氏の“高齢不安”を加速させる報道が増え、陣営側は否定に躍起となっています」(全国紙外信部記者)

バイデン氏は 2 月 4 日の演説でフランスのマクロン大統領を 96 年に死去したミッテラン元大統領と言い間違えたのに続き、7 日にはドイツのメルケル前首相とコール元首相を混同。さらに 8 日の記者会見で「私の記憶力は大丈夫だ」と大見得を切った直後の記者とのやり取りで、エジプトのシーシ大統領を「メキシコの大統領」と発言し、逆に国民の疑念を深める結果になった。

「同じ 8 日には、バイデン氏の自宅から副大統領時代の機密文書が見つかった問題を捜査しているロバート・ハー特別検察官の報告書が発表されました。そのなかでハー氏は、バイデン氏を『高齢で記憶力が乏しい』と表現し、仮に訴追しても『陪審員が記憶力の低下した老人』と見なす可能性があることから『刑事訴追はしない』との結論に至ったと述べています」(同)

### 軽度認知障害の可能性

他にも報告書内には、バイデン氏が「聴取の際に長男が亡くなった年(2015 年)を思い出せなかった」などの記載もあり、不安を補強する“材料”には事欠かない状況だ。実際のところ、そんなバイデン氏を専門家はどう診るのか。

『認知症は予防できる』などの著書がある、医師で作家の米山公啓氏がこう話す。

「医師の立場から見ると、バイデン氏が記憶障害を患っている可能性は高いと考えます。81 歳という年齢であっても記憶力が正常な人もいるなか、最近のバイデン氏の言い間違えの頻度は障害を疑うに足り得るといえます。ただ報道を見るかぎり、日常生活には問題がないと考えられ、いわゆる軽度認知障害(MCI)が疑われるレベルです」

MCIとは認知症の前段階にあたり、記憶障害などが認められる反面、認知機能は保たれているため日常生活に支障をきたすことはないという。また MCI になれば、必ず認知症へと移行するわけではないものの「MCI 患者の 10~30%が最長 10 年以内に認知症を発症」するとのデータがあるという。

### 大統領職は務まるのか？

米山氏が続ける。

「一般的に、脳に強いストレスがかかると認知機能の低下を促す作用が報告されています。バイデン氏が再選を目指すアメリカ大統領職は、強烈なプレッシャーとストレスに加え、高度な判断を日々求められることで知られます。周囲に有能なスタッフを揃えたとしても、最終決断を下すのはあくまで大統領。それを考えると、アメリカ国民の不安にも相応の根拠があるといえます。仮に再選しても任期を全うできる保証は現状、誰もできないのではないのでしょうか」

“打倒トランプ”に向け、バイデン氏は 11 日から若者に人気のアプリ TikTok を活用した選挙戦を展開し、若年層への支持拡大を図っている。TikTok に投稿されたバイデン氏の動画はわずか 1 日で 600 万回以上も再生されたが、ここでもトラブルが……。

「米政府は昨年 3 月、国内での TikTok 利用を全面禁止する法案を賛成多数で可決したばかりで、すでに連邦政府職員の公用端末で TikTok の使用は禁止されています。理由は中国の動画投稿アプリである TikTok に対し、中国側への情報流出など『安全保障上の懸念』が浮上しているためです。そ

れなのに自身の選挙戦では TikTok を利用するというダブルスタンダードに批判が集まる一方で、SNS 上では“バイデンは TikTok 禁止令を本当に忘れていただけではないか”といった笑うに笑えない指摘も増えています」(前出・記者)

「政治の高齢化」は日本も同様。バイデン氏の動向から目が離せない。

デイリー新潮編集部